

厚生労働科学研究費補助金 【エイズ対策政策研究事業】  
HIV 検査受検のための性産業従事者や事業者等に対する効果的な介入に向けた研究  
(分担)研究報告書

トランスジェンダーSW（セックスワーカー）に対する効果的な介入方法  
～トランスジェンダー・セックスワーカーの性の健康に関する啓発の実践と研究～

研究分担者：今村 顕史（東京都立駒込病院）  
研究協力者：金子 典代（名古屋市立大学）  
浅沼 智也（TRANS VOICE IN JAPAN）  
荒木 順（特定非営利活動法人akta）  
砂川 秀樹（明治学院大学国際平和研究所）  
生島 嗣（特定非営利活動法人ふれいす東京）  
塩野 徳史（大阪青山大学）  
宮田りりい（SWASH/MASH大阪）  
堅多 敦子（東京都立駒込病院）

#### 研究要旨

本研究は、トランスジェンダーのセックスワーカー（以下、TG-SW）を対象に、以下を実現していくための環境づくりを目的としている。・HIVなど性感染症に関する情報が入手できる・新しい情報に基づき、性感染症に関する予防方法を自ら選択実行できる ・HIVなど性感染症の可能性があったとき、安心して検査を受けられる ・HIVなど性感染症に感染したときに、安心して治療につながるができる。

その目的達成に向けて、質問紙調査やインタビュー調査を通じて、TG-SW の置かれている状況を把握するとともに、啓発を進めていくための協力体制を構築しながら啓発介入を実施し、その全体の動きを一つのモデルケースとして提示する。

今年度は、2021 年度に作成した啓発用資材（冊子とリーフレット）を 500 名以上の当事者の来場がある東京トランスマーチで配布した。また、トランスジェンダー向けのオンライン勉強会を 2 回開催し、医療従事者、専門家や当事者への啓発を実施した。さらに 2022 年のエイズ学会でも研究成果の発表を行った。

本研究班で実施したトランスジェンダー当事者への質問紙調査からは U=U、PrEP といった比較的新しい情報が十分に行き渡っていないことが明らかになった。そのため勉強会ではこれらの新しい情報の普及も行った。またこれまでの資材を掲載したウェブサイトを作成、公開した。

トランスジェンダー当事者が参加し、啓発資材を製作、当事者が集まる場で資材のアウトリーチを実施したことの意義は大きい。質問紙調査、インタビュー調査いずれからも、TG の集団の中での多様性が示されている中、その多様性を意識し、また彼らに到達する様々な啓発資材の開発が必要である。

多くのトランス当事者が集まるイベントでの情報普及は、必要だが未到達な情報を広く流通させるために重要な役割を持つと思われる。これまで十分に啓発対象とされたなかった層に情報が行き届くには時間がかかることから、長く啓発がおこなわれていく体制が必要と言えるだろう。

#### A. 研究目的

本研究は、トランスジェンダーのセックスワーカー（以下、TG-SW）を対象に、以下を実現していくための環境づくりを目的として行っている。

- ・HIVなど性感染症に関する情報が入手できる
- ・新しい情報に基づき、性感染症に関する予防

方法を自ら選択実行できる

・HIVなど性感染症の可能性があったとき、安心して検査を受けられる

・HIVなど性感染症に感染したときに、安心して治療につながるができる

その目的達成に向けて、質問紙調査やインタビュー

一調査を通じて、TG-SW の置かれている状況を把握するとともに、啓発を進めていくための協力体制を構築しながら啓発介入を実施し、その全体の動きを一つのモデルケースとして提示する。

調査、啓発の対象としては、TG-SW を想定しているが、TG-SW は社会的にマイノリティ性が高いため、もっともアクセスが難しい層の一つである。よって、質問紙調査、啓発はトランスジェンダー全体を対象としている。それにより、まず、トランスジェンダーネットワークの中にある TG-SW にリーチすることができる。また、TG-SW のみを対象として明示すると、社会的スティグマゆえに逆にその人たちが忌避する可能性もあり、TG-SW へのアプローチを意識しながら、トランスジェンダー対象として行っていく。

## B. 研究手法

### 1. 啓発の実施

研究班の初年度、2 年目からとってきたアプローチを踏襲し、本年度も下記の手順で実施した。1. 啓発の立案 2. パネルディスカッション開催による共通認識の共有を踏まえたうえでの実施である。

#### (1) 資材製作

##### ①冊子

主に医療従事者や支援者を配布対象とする、WEB 質問紙調査の結果をまとめた冊子『トランスジェンダーとセクシュアルヘルス 2021 年オンライン調査から』(A4 カラー 1,000 部)を配布する。

##### ②リーフレット

トランスジェンダー当事者向けのリーフレット『トランスジェンダーとセクシュアルヘルス Q&A』(A3 折りカラー 2,000 部)をコミュニティセンター、トランスマーチで配布する。また本研究班で制作、公開する WEB サイトにも掲載する。

##### ③サイト構築

上記冊子とリーフレットに掲載した情報の流通を高めるためサイトを新たに製作、公開する。

#### (2) イベント開催、イベントへの協力

##### ①開催

オンラインの勉強会を 2 回開催する。第 1 回は産婦人科医による性の多様性、医療現場でのトランスジェンダーの医療アクセスの実態と改善案の提言、またトランスジェンダーのクライアントの看護ケア提供経験のある看護師からの講義も取れ入れどのよにトランスジェンダー当事者へのケアを提供するかを考える機会とする。第 2 回目は本研究班の調査成果を研究協力者の金子典代が報告、参加者と今後の方向性についてのディスカッションを行う。(両勉強会とも、案内と発表者、担当者報告を資料として本文後に掲載している)

##### ②協力

大阪のコミュニティセンター dista で「トランスジェンダーや多様な性についてわいわい話すサロン」として基本的に隔月(新型コロナ感染流行状況により休会あり)開催されている「kinky café」(主催: きんきトランス・ミーティング)と協力をを行い、資材の配布、当事者との連携をはかる。

#### 2. WEB 質問紙調査の分析

2021 年 2 月 17 日～3 月 11 日に実施した WEB 質問紙調査(有効回答者数 276 名)の追加分析を行う。

なお、質問項目には、基礎属性、HIV に関する基礎知識、HIV についての対話経験、HIV 検査行動、金銭の授受を伴う性産業従事経験、性行動や HIV 感染予防行動、PrEP の認知などを含む全 30 問である(質問紙は令和 3 年度の報告書に掲載している)。対象者は、日本語が読むことができ、日本に居住する性別違和・トランスジェンダー当事者で調査サイトにアクセスしたものである。

## C. 研究結果

### 1. 啓発の実施

#### (1) 資材製作

##### ①冊子

医療従事者や支援者に、トランスジェンダーの多様性とセクシュアルヘルスに関して置かれている状況の理解を促進することを目的として、WEB 質問紙調査の分析の中から、属性の他、ジェンダー／セクシュアリティ、HIV 検査、エイズの知識、HIV 以外の性感染症検査、性感染症の罹患歴・受診、性別違和感と検査や受診の関係、性交渉、金銭授受を伴う性交渉、性産業の従事経験の項目に分けて掲載している。これらの冊子は東京トランスマーチ、プライドハウス、コミュニティセンターakta, dista, rise 等でも総計 1000 部の配布を行った。また冊子の内容は PDF にし、本研究班の WEB サイトに掲載し、そのサイトの QR コードがついた資材を東京トランスマーチで配布した。

## ②リーフレット

トランスジェンダー当事者にセクシュアルヘルスに関する基本的な情報を伝えるため、より安全なセックス、HIV/AIDS、性感染症に関する基礎知識、相談先を記載したものである。また、詳細な情報を得たい場合にインターネット上で確認できるよう、それぞれのテーマについての情報が取得できるサイトの QR コードも掲載したものである。このパンフレットは東京トランスマーチ、プライドハウス、コミュニティセンターakta, dista, rise でも配布を行った。またパンフレットの内容は PDF にし、本研究班の WEB サイトに掲載し、そのサイトの QR コードがついた資材を東京トランスマーチで配布した。

## ③サイト構築

上記冊子とリーフレットに掲載した情報の流通を高めるため令和 4 年度には、WEB サイト (<https://trans-sh.jp/index.html>) を新たに製作、公開した。

## (2) イベントの開催

オンラインの勉強会を 2 回開催した。第 1 回は産婦人科医による性の多様性、医療現場でのトランスジェンダーの医療アクセスの実態と改善案の提言、

またトランスジェンダーのクライアントの看護ケア提供経験のある看護師からの講義も取れ入れた。ZOOM を活用して実施し、18 名の参加があった。

第 2 回目は本研究班の調査成果を研究協力者の金子典代が報告、参加者と今後の方向性についてのディスカッションを行った。担当スタッフによる報告を資料として本文後に掲載している。第 2 回目は当事者を含め 10 名の参加があった。

## ②協力

・「トランスジェンダーとセクシュアルヘルス(性の健康)」(主催:プライドハウス東京レガシー)

同イベントでは、LGBTQ+のコミュニティセンター「プライドハウス東京レガシー」でパネル展を実施した。パネル展のパネル製作にあたり、本研究班でおこなった WEB 質問紙調査のデータを提供した。またイベントでは、本研究班で作成した資材も配布した。

・「kinky café」(主催:きんきトランス・ミーティング)

コミュニティセンターdista にて、トランスジェンダーや多様な性について安心して話せるサロン形式のイベントを実施した。また本研究班で作成した資材も配布した。

・開催日:主な内容は下記のとおりである。

5 月 14 日:カードゲームを楽しみながら、参加者同士で近況などを共有した。

7 月 9 日:「結婚の自由をすべての人に」訴訟の弁護団メンバーを招いて勉強会を開催した。

9 月 10 日:カードやボードゲームを楽しみながら、参加者同士で近況などを共有した。

9 月 24・25 日:「ノーマル・スクリーン」とのコラボで映画上映およびトークイベントを実施した。

11 月 12 日:おすすめの映像や書籍について、参加者同士で紹介し合った。

12 月 30 日:kinky cafe の night 版として、オールナイトで交流会を開催した。

## 2. WEB 質問紙調査の集計

有効回答者数は、276 名となり、昨年度の集計に加え、本年度は、質問内容により一部、問いの並びを変えている。

資料 2、図 1 はジェンダー、セクシュアリティの自己意識の分布を見たものであるが、本研究回答者では、FtM の割合が 55.9%と最も高かった。この割合の偏りを解消するために、セクシュアリティ別に 3 群に分けた解析結果を図 2 から図 13 に示す。

図 3 から約 3-4 割が友達や知り合いに HIV 陽性者がいると回答していた。図 4 から、U=U の知識は、MtF でも 35.3%、FtM でも 28.6%にとどまった。図 5 から、性交渉の経験があるものは、全体の約 8 割を占め、FtM において、90.1%と最も高かった。図 6 から、過去 6 か月に性交渉のあるものは、4 割から 5 割台であった。図 7 から、過去 6 か月のコンドームを全く使わなかったものの割合は、MtF で 35.3%、FtM で 26.6%となっていた。図 8 で検査経験のあるもののうち、過去 1 年に検査を受けたものは 20-30%台であった。定期的に検査を受けているものは、30%以下にとどまった。検査を受けない理由は、感染している理由がないからが多いことが分かる。図 11 から PrEP の認知は非常に低いことが明らかとなった。図 12 から、性風俗系の仕事の従事経験は MtF において 11.8%と最も高かった。性風俗の仕事をした場所としては、MtF でも FtM においても、デリバリーヘルスが最も多く、店舗型ヘルスが続いていた。

また過去 6 か月の性行動の有無別にも検討を行った。図 15 に示す通り、HIV 陽性者の身近さは 30%台にとどまっていた。また、U=U の認知も 30%台にとどまっていた。過去 6 か月のコンドーム常用割合は、24.0%であった。図 19 に示す通り、過去 1 年間に HIV 検査を受けた経験は、過去 6 か月に性交渉があるものでは 51%であった。検査を受けない理由は、感染をしている可能性がないから、が最も高かった。図 22 に示す通り PrEP の認知は過去 6 か月性行為経験者においても 12.4%と低かった。図 23 に示す通り、過去 6 か月に性交渉があるもののうち、

性風俗の仕事経験があるものは 10.9%、従事した仕事の場所は、デリバリーヘルスが最も多く、店舗型ヘルスが次に多かった。

## D. 考察

### 1.啓発の実施

#### (1) 資材製作

リーフレットの製作過程において出された意見、検討された課題で、トランスジェンダーを対象に啓発を進めていく上で重要と思われることを考察として記しておきたい。

まず、表象をめぐる問題である。海外のトランスジェンダーのセクシュアルヘルスに関するサイトでは、トランス女性、トランス男性当事者と思われる人の写真が掲載されていることが多い。しかし、まず日本では、そのように写真を出せる当事者は少ない。さらに、トランスジェンダー向けの資材であることを明示するために、トランスジェンダーの「当事者らしい」人物の写真を使うことは、ステレオタイプの強化につながる可能性がある。イラストも、人物を描いたものを用いるならば、同様な問題が生じる。一方、「当事者らしさ」を意識させない人物イラストを使うとすれば、社会における支配的な女性／男性のジェンダーイメージに沿ったものとなりがちであり、ジェンダーに関するマイノリティであるトランスジェンダーには抑圧的な意味を持つ恐れがある。そうしたことへの配慮から、今回の冊子では、人物イラストを避け、日常生活をイメージさせるカットを多く用いた。

また、掲載する文章を検討する中で、「体」について言及する言葉については、当事者から、センシティブな話題なので避けたほうがいいという意見が出され、削除することとなった。他、性感染症の不安があるときにどの科にかかるべきかということが、多くの当事者が困ることの一つとして指摘されたことで、表紙に「性感染症のときには何科に行けばいいの？」という文言を入れることとなった。こうした製作プロセスから、啓発資材開発に当事者が参加することの重要性は明らかと言えるだろう。

だが、今回製作した資材はあくまでスタートであり、

多様なトランスジェンダー当事者の意見を聞きブラッシュアップしていく必要があることも、製作に参加したメンバーの中で確認された。

## (2) イベントの開催

本研究班が主催したイベントの内容について、開催スタッフからの報告には、「ゲストの水商売の経験談からは、HIV・性感染症を話題にすることや検査行動は、雇用関係にも影響するため、しづらい環境にあることがわかった。また性感染症が心配な時に何科を受診したらよいかわからないトランスジェンダーが多いとの話題があった」と記されている。これまでも指摘してきたトランスジェンダーの抱えがちな問題が確認される内容だったと言えるだろう

また、「来場者は生き生きとした表情で、参加した喜びを語っていた」「トランスジェンダーのセクシュアルヘルスについて話題にする機会はまだまだ少なく、継続の必要性を感じた」と挙げられている。(報告書は本文後に掲載)。

## 2. WEB 質問紙調査の分析

セクシュアリティ別に検討すると、U=Uの知識は、MtF で 35.3%、FtM でも 28.6%にとどまった。性交渉の経験があるものは、全体の約 8 割を占め、FtM において、90.1%と最も高かった。過去 6 か月のコンドームを全く使わなかったものの割合は、MtF で 35.3%、FtM で 26.6%となっていた。本邦では、トランスジェンダーの性行動を調べた研究ははじめてであり、高低の検討は難しいが、今後はコンドーム使用意図や必要性の認知とも照らし合わせながらの検討が必要である。定期的に検査を受けているものは、30%以下にとどまった。検査を受けない理由は、感染している理由がないからが多かった。

過去 6 か月の性行動の有無別にも検討を行った。U=U の認知も 30%台にとどまっており、PrEP の認知も低かった。HIV 検査は、過去 6 か月に性行為を実施したものでは性行為を行っていないものより、高かったが、検査を受けない理由は、感染をしている可能性がないから、が最も高かった。PrEP の認

知は過去 6 か月性行為経験者においても 12.4%と低かった。新しい知識の浸透度は著しく低いことが示された。トランスジェンダーコミュニティにも HIV の知識のアップデートを踏ることが極めて重要である。

## E. 結論

今回集計した WEB 質問紙調査の結果からは、HIV 検査を受けられる場所に関する重要な情報や U=U、PrEP といった比較的新しい情報がトランスジェンダーに十分に行き渡っていないことが明らかになっている。この調査は、SNS を通じて回答者を募り、WEB 上で回答する形式であることから、回答者はインターネットの利用に慣れている人たちであることが想定される。それは、HIV/AIDS に関する情報へのアクセスも比較的容易であり、トランスジェンダーのネットワーク上にいる人たちであるわけだが、その人たちに情報が行き届いていないということは、そうではない人たちには一層届いていない可能性も高い。

そうした状況の中、トランスジェンダー当事者が参加し啓発資材を配布したことの意義は大きい。インターネットを利用し、かつトランスジェンダーのネットワークにいるにもかかわらず、情報が十分に行き届いていないということは、その人たちを対象とした資材が不足していることが考えられるからだ。このような、hard to reach のマイノリティを対象とした資材を開発するときには、情報を吟味し、表現に十分に配慮する必要がある。今回、製作における議論を考察に書き残したのは、その問題意識からである。だが、質問紙調査、インタビュー調査いずれからも、TG の多様性が示されている中、その多様性を意識した様々な啓発資材が必要である。

こうした情報を広く流通させるためには、ネットワークのハブとなる人たちの存在が重要であり、勉強会、東京トランスマーチへの協力、「kinky café」には、そうした人たちを増やし、つないでいく役割が期待される。また、担当スタッフの報告からは、エンパワメントの場になっていることもうかがえる。

これまで十分に啓発対象とされたなかった層に情

報が行き届くには時間がかかることから、長く啓発がおこなわれていく体制が必要と言えるだろう。

## F.健康危険情報

特になし

## G.研究発表

1. 論文発表
2. 学会発表
  - 1) ○浅沼智也、金子典代、荒木順、生島嗣、塩野徳文、砂川秀樹、宮田りりい、今村顕史：「トランスジェンダーとセクシュアルヘルス」GID学会第23回研究大会(ポスター発表)、2022.3.12-13(オンライン)
  - 2) ○金子典代、浅沼智也、荒木順、生島嗣、塩野徳史、砂川秀樹、宮田りりい、今村顕史：性別違和・トランスジェンダー当事者における性産業従事経験、性行動、性感染症の罹患、検査の実態. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会, 浜松, 2022

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし



# トランスジェンダーと リプロダクティブ・ ヘルス/ライツ

---

## 目的

トランスジェンダーなどの多様なジェンダーの人の人達のセクシュアルヘルスを享受する権利を医療従事者に知っていただきたい。社会からの抑圧を受けず、当事者がセクシュアルヘルスを守り、必要時に必要な医療サービスにアクセスし、医療現場で等しく権利を享受するにはどうしたらよいかを共に考える。

---

<b>開催日時</b>	<b>2022.12月2日 金 19:00 - 20:30</b>	お申込みフォームは こちらから
<b>参加方法</b>	オンライン(ZOOM)	 <a href="https://onl.lnw/FqD2Lm">https://onl.lnw/FqD2Lm</a>
<b>参加費</b>	無料(事前申込制)	
<b>ゲストスピーカー</b>	<p>いずみん</p> <p>・<b>李秀訂氏</b> 東海地域の看護系大学教員でトランスジェンダー当事者への看護ケア経験のある看護師</p>	
	<p>早乙女智子氏 婦人科医、性と健康を考える女性専門家の会 代表理事</p>	
<b>司会</b>	金子典代 (名古屋市立大学 国際保健看護学) 浅沼智也 (看護師/映画監督)	

---

主催：厚生労働省エース対策政策研究事業 HIV受検推奨のための性産業従事者や事業者等に対する効果的な介入に向けた研究(代表:今村顕史)

# トランスジェンダーと セクシュアルヘルス

## 性の健康と今後の課題

**2022年12月19日 (月) 19:00~20:00**

**参加方法：ZOOM (事前申し込み不要)**

**ミーティングID: 853 3995 8316**  
**パスコード: 1219**

---

**[出演者]**  
金子典代 (名古屋市立大学)  
宮田りりい (関西大学 人権問題研究室)  
浅沼智也 (看護師)

**お問い合わせ先**  
trans.sexualhealth2022@gmail.com

**参加費  
無料**

厚生労働省研究費補助金エース対策政策研究事業 HIV受検推奨のための性産業従事者や事業者等に対する効果的な介入に向けた研究 (研究代表者:今村顕史) 主催

図1 ジェンダー/セクシュアリティの自己意識 (n=288)

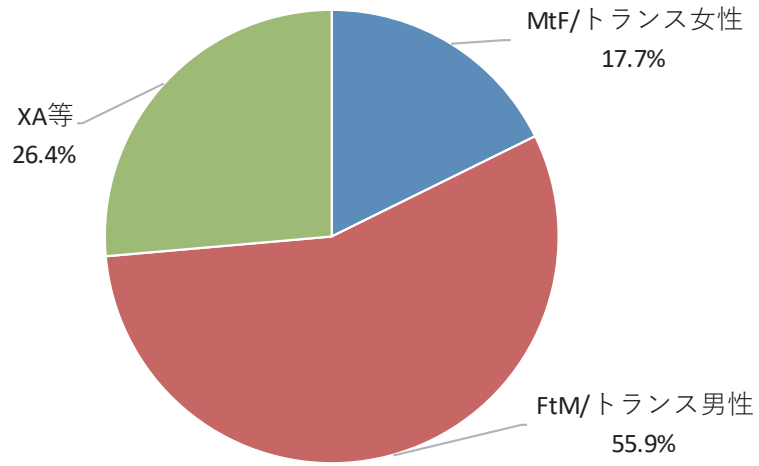


図2 治療、戸籍名変更、性別変更等を経験した割合 (複数回答)

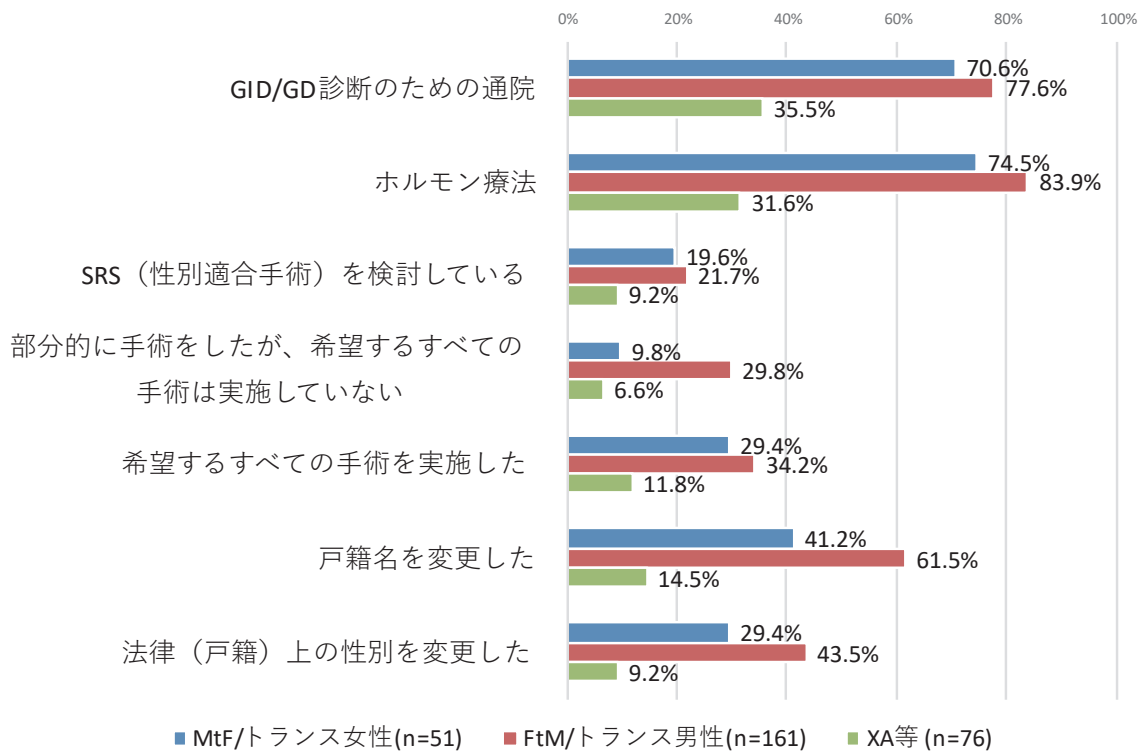




図3 友達や知り合いにHIV陽性者(HIVに感染している人)がいるか

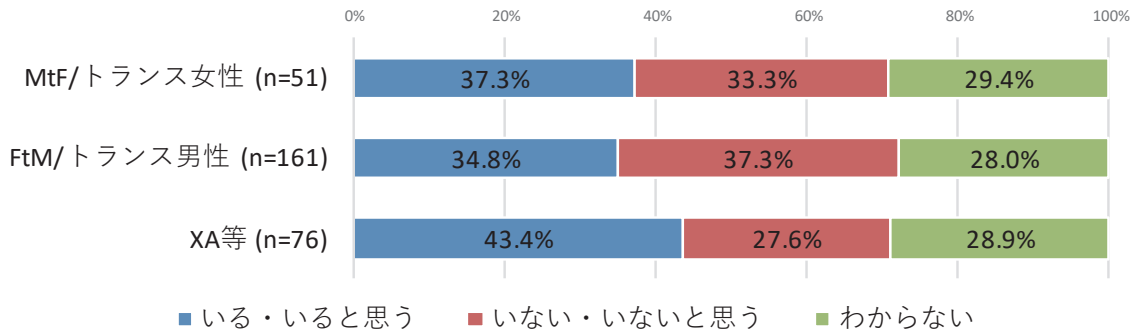


図4 「HIVに感染していても、治療で血液中に HIVが見つからないレベルの状態（検出限界以下）が6か月間継続していれば、セックスで相手に感染させるリスクは事実上ない」（U=U）を知っているか

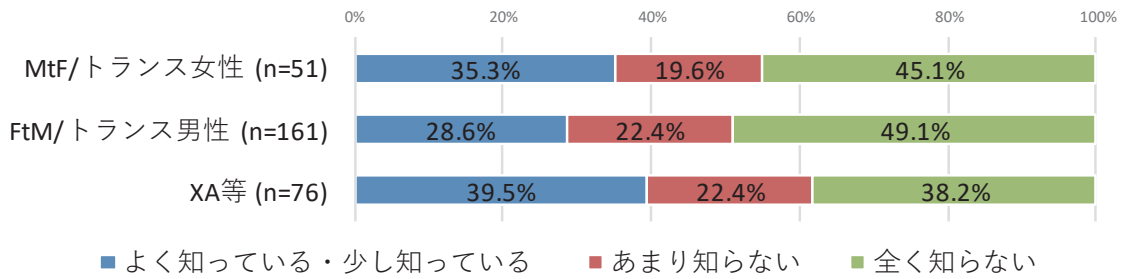


図5 これまでに性交渉をしたことがあるか

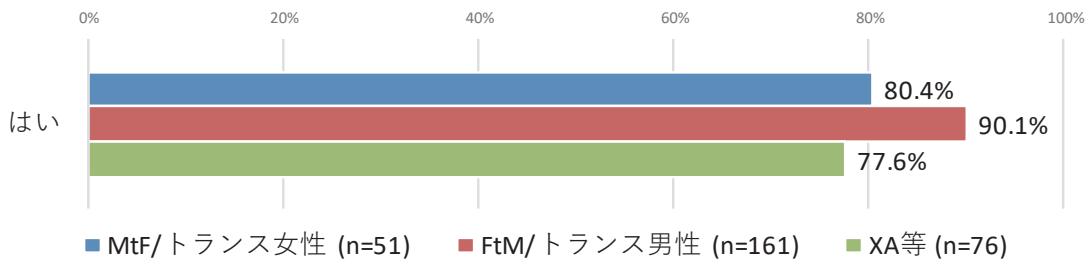


図6 過去6か月間に性交渉をしたことがあるか  
(性交渉経験者のみ対象)

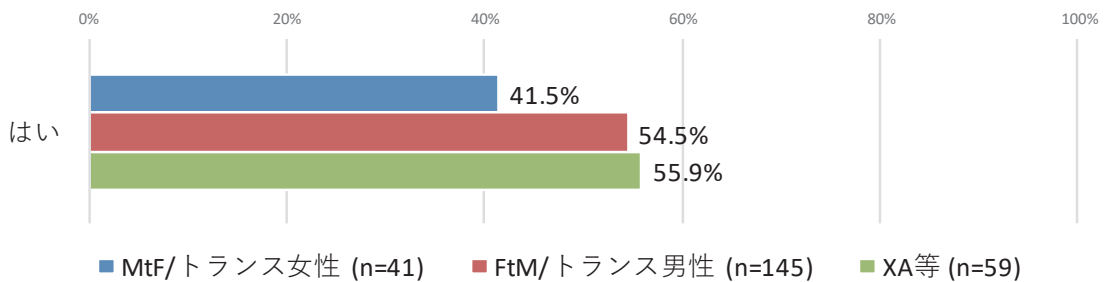


図7 過去6か月間のコンドーム使用状況  
(過去6か月間の性交渉経験者のみ対象)

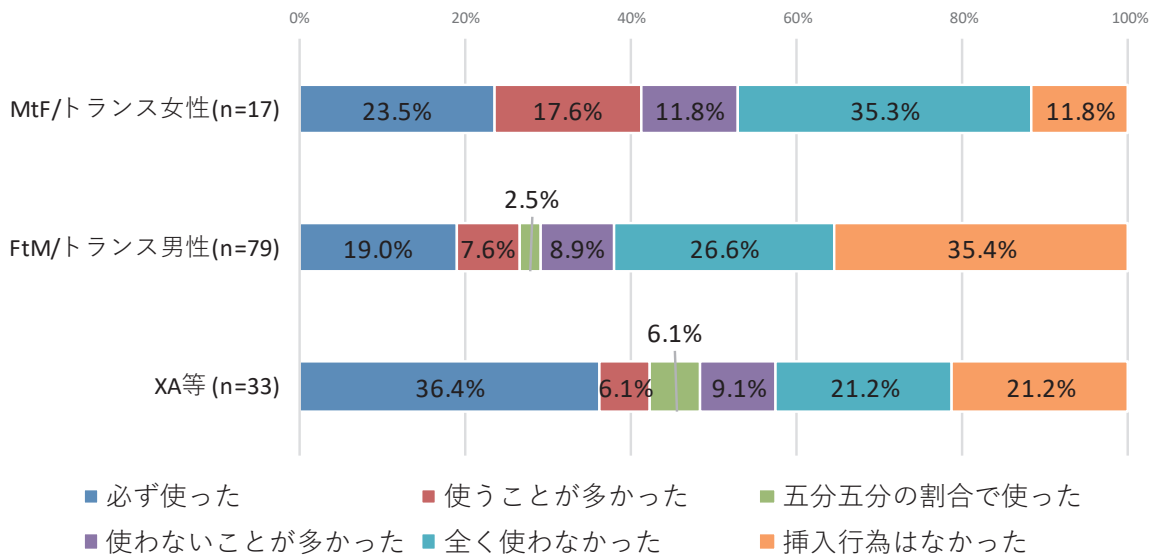


図8 過去1年間にHIV抗体検査（エイズ検査）を受けた経験  
(受検経験者のみ対象)

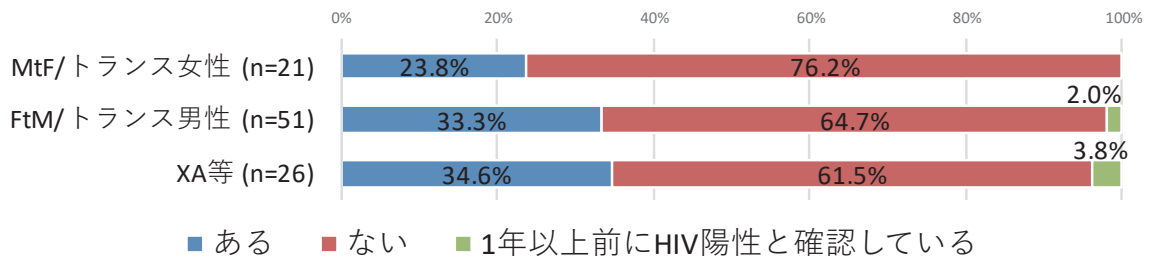


図9 定期的にHIV検査を受けているか  
(受検経験者のみ対象)

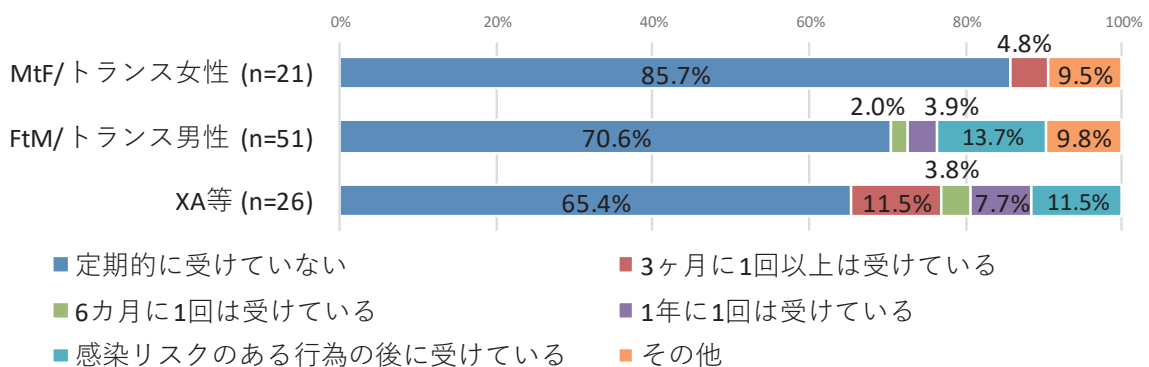


図10 HIV抗体検査を受けていない理由

(複数回答 検査未経験者のみ対象)

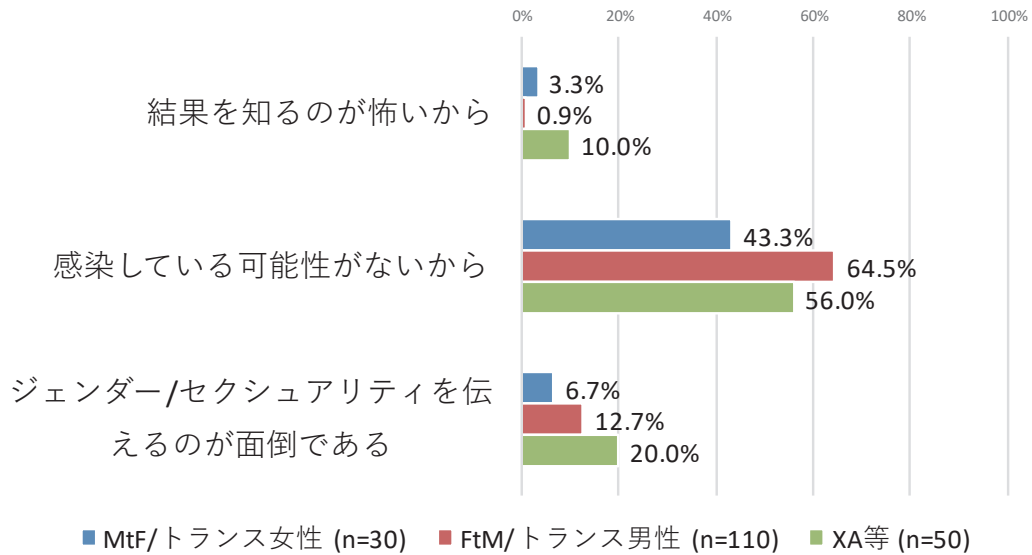


図11 PrEP、プレップ(性交渉の前後に、継続して服薬することでHIV感染のリスクを下げる予防法)について知っているか

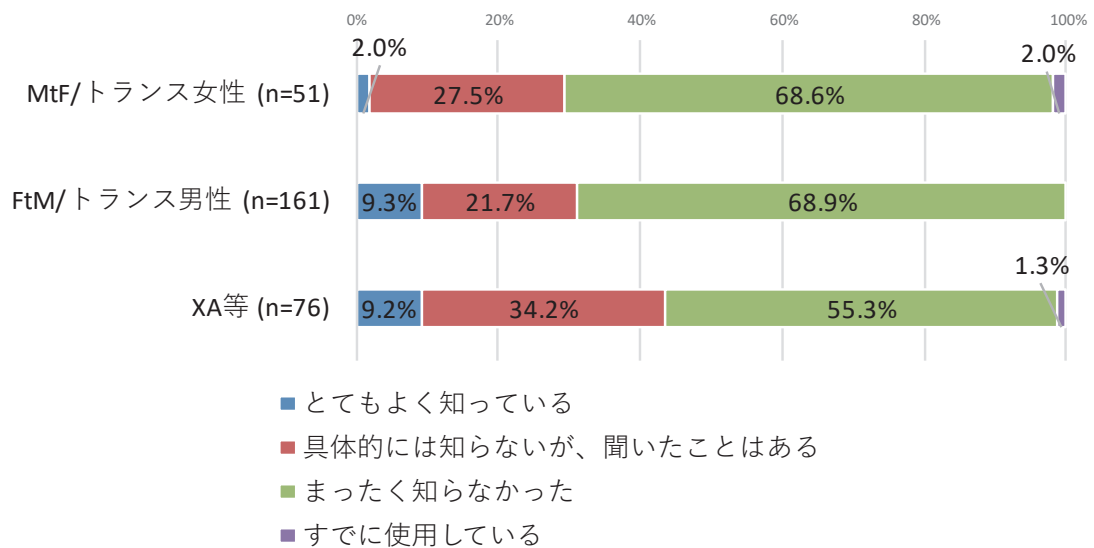


図12 これまでに性風俗系の仕事をしたことがあるか

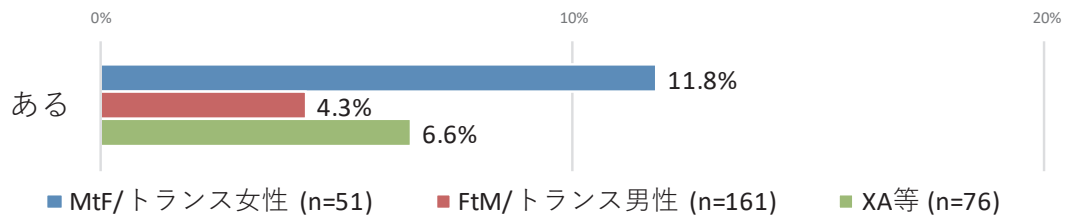


図13 性風俗系の仕事をした場所・方法

(複数回答 性風俗系の仕事の経験者のみ対象)

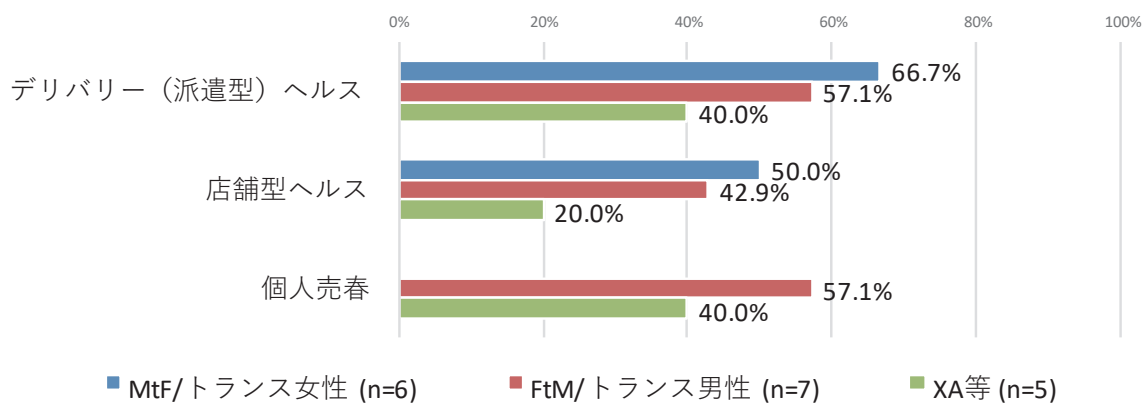


図15 友達や知り合いにHIV陽性者 (HIVに感染している人) がいるか

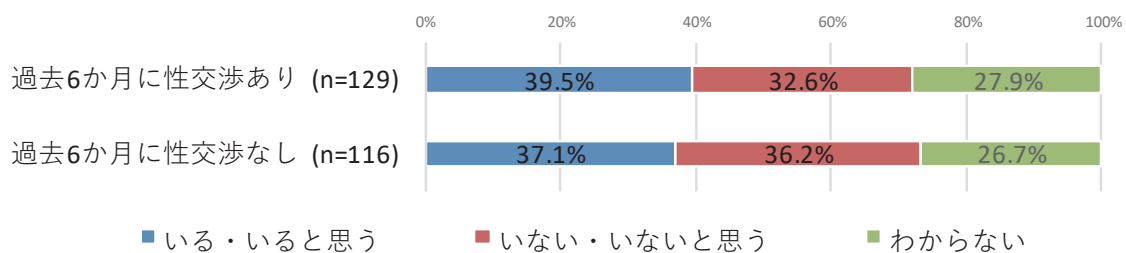


図16 「HIVに感染していても、治療で血液中に HIVが見つからないレベルの状態 (検出限界以下) が6か月間継続していれば、セックスで相手に感染させるリスクは事実上ない」 (U=U) を知っているか

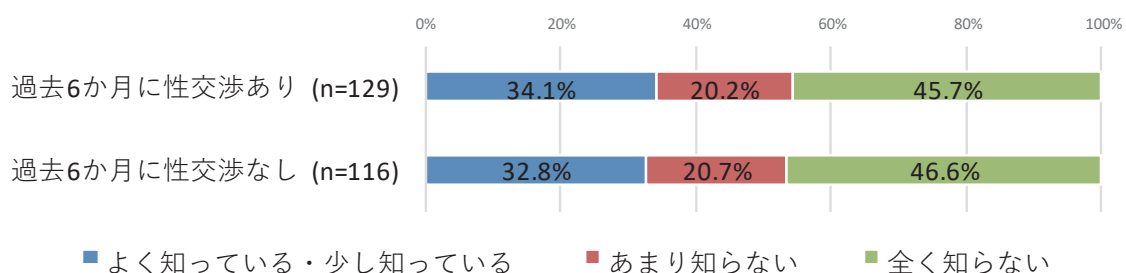


図17 これまでに性交渉をしたことがあるか

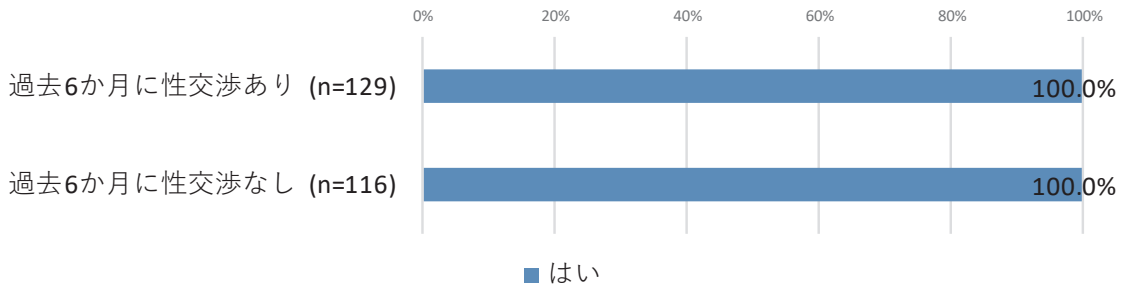


図18 過去6か月間のコンドーム使用状況

(過去6か月間の性交渉経験者のみ対象)

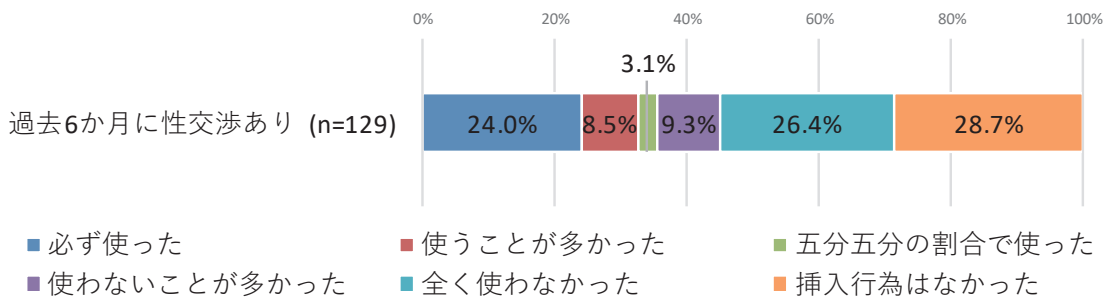


図19 過去1年間にHIV抗体検査（エイズ検査）を受けた経験（受検経験者のみ対象）

P < 0.05

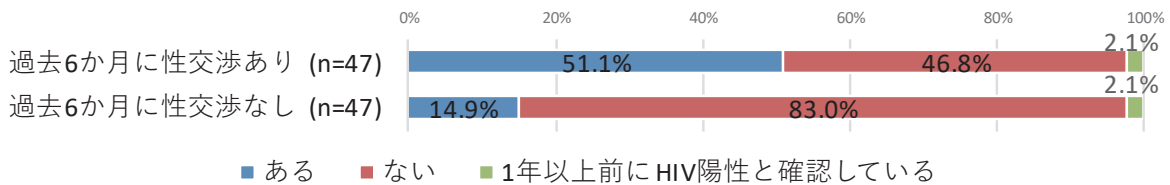


図20 定期的にHIV検査を受けているか

(受検経験者のみ対象)

P < 0.05

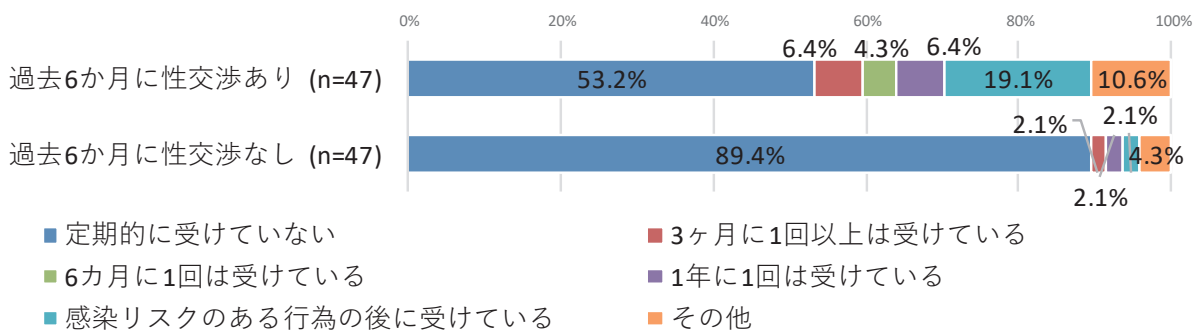


図21 HIV抗体検査を受けていない理由

(複数回答 検査未経験者のみ対象)

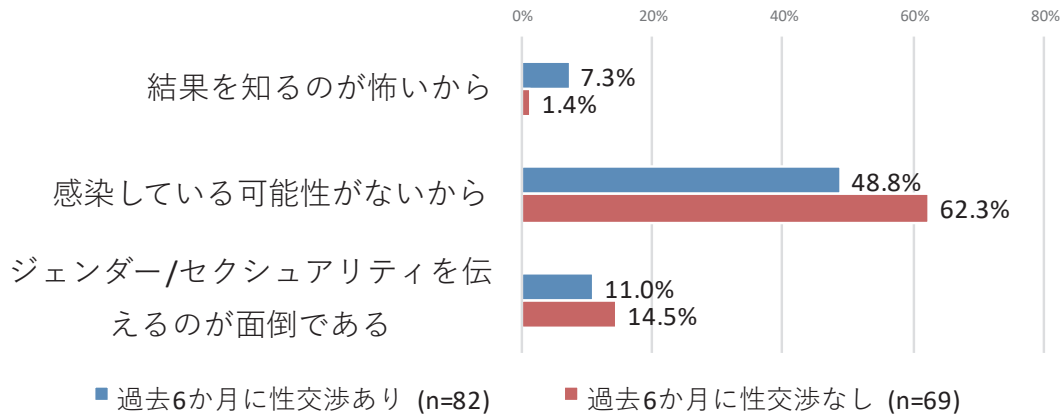


図22 PrEP、プレップ（性交渉の前後に、継続して服薬することでHIV感染のリスクを下げる予防法）について知っているか

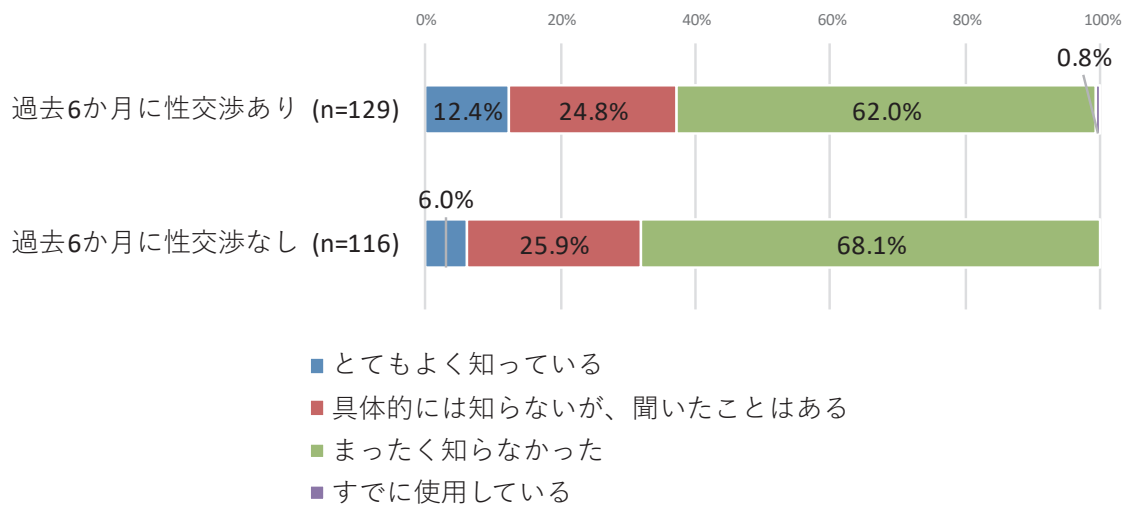


図23 これまでに性風俗系の仕事をしたことがあるか

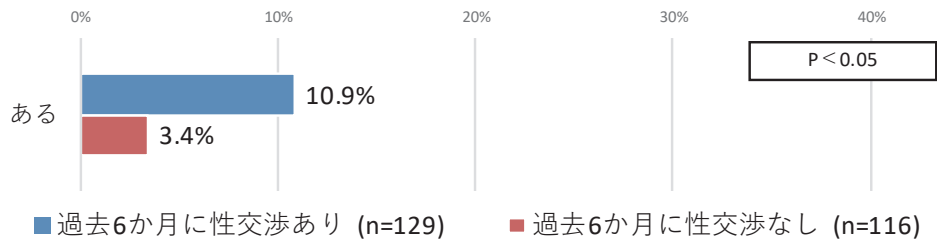
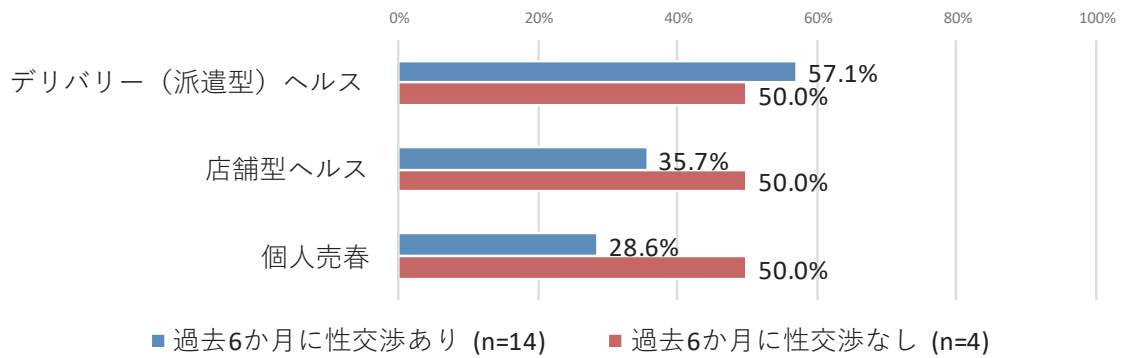


図24 性風俗系の仕事をした場所・方法

(複数回答 性風俗系の仕事の経験者のみ対象)



# Hello!



- ・広島県の私立看護大学を卒業
  - ・新卒で総合病院の個室病棟に配属（5年間）
- 病棟の規模：556床 28診療科  
個室病棟：様々な診療科の患者が入院する  
リピーターの患者が多い

2

## 個室病棟勤務で トランスジェンダーの入院患者を 対応した経験について

椋山女学園大学看護学部  
李 秀訂(いすじょん)

### 個室のメリットとデメリット

#### メリット

- ・プライバシーが守られる
- ・面会者も気兼ねなく会話ができる
- ・広いスペースが使える
- ・トイレや洗面台も一人で利用できる
- ・室内環境を調整できる
- ・密なコミュニケーションがとれる
- ・感染リスクが低い

#### デメリット

- ・他患者との情報交換や交流が減る
- ・差額ベッド代により入院費の負担
- ・医療者が訪室しなければ会話の機会が少ない
- ・急変に気づくことが遅れてしまう

3

### トランスジェンダーの患者さん

- ・40代後半 FTM
- ・主科：形成外科
- ・前外側大腿皮弁+前腕皮弁 陰茎形成術を受けたが陰茎や移植した後の皮膚トラブルで入院
- ・年に1回程度で入院されるリピーター 入院期間は1週間以内
- ・入退院時にスーツを着ているダンディーな方 経済面は安定？
- ・必要以上のことは自ら話さない 少しシャイ
- ・女性のパートナーが度々面会される

4



## 該当病棟の看護師の状況

- LGBTの患者の対応についての知識がない
- 患者と親密な関係が持ちにくい  
(情報収集に躊躇してしまう)
- リピーターの患者であるが、患者の詳しい情報収集ができない
- 疾患や手術の詳しい知識がない、そのため後輩看護師への指導ができない
- 同じ状況が入院されるたびに繰り返される

5

## LGBTに関する医療者側への教育について

- 該当の病院では勉強会、研修が行われたことがない
  - 資料を見かけたことがない
  - LGBTの患者さん対応の経験が少ない (または気づかない)
- ↓
- 組織での取り組みが必要になってくる

6

# Thanks!



- 多様性を支える社会の変化に伴い、医療現場でも患者さんの多様性を受け入れるための医療者側の変化が必要
- 「患者の個別性を大切に」といった看護の基本的な考え方が、LGBTの人を含めた多様な患者にも反映できるようにしたい

7

## トランスジェンダーとセクシュアルヘルス

### 性の健康と今後の課題

2022年12月19日(月) 19:00~20:00  
 参加方法: ZOOM (事前申し込み不要)  
 ミーティングID: 853 3995 8316  
 パスコード: 1219

【出演者】  
 金子典代 (名古屋市立大学)  
 宮田ワリイ (関西大学 人権問題研究室)  
 浅沼智也 (看護師)

参加費 無料  
 お問い合わせ先  
 trans.sexualhealth2022@gmail.com

名古屋市立大学看護学部看護学系看護学専攻(〒466-8601名古屋市東区)にて開催。録音・録画も実施。録音・録画は、研究目的で利用させていただきます。

性の健康と今後の課題か  
 今後取り組むべき課題は何か？

2022年 12月19日(月)  
 名古屋市立大学看護学研究科  
 金子典代

## トランスジェンダー・性別違和・GID当事者276名の調査から見えたこと

ジェンダー/セクシュアリティ	割合
FTM/トランス男性	58.3%
その他	5.8%
MXX	6.5%
FX	10.9%
MTF/トランス女性	18.5%

「その他」には、ノンバイナリー、表明しない、女装、会社では男だが他は男ではないなどが含まれる。

## これまでの実績

- 当事者、当事者支援団体、疫学研究者、社会学研究者の協働で研究遂行
- R2年度に本研究班で実施した246名へのセクシュアルヘルスに関するオンライン調査結果をまとめた冊子とリーフレットを製作、WEB公開、全国に配布、学会発表<sup>1)</sup>
- R2-R4にかけて、トランスジェンダー向けイベントにて、調査結果資料の配布、啓発を実施

1) トランスジェンダーとセクシュアルヘルス 浅沼智也、金子典代、荒木順、堀野亜由、初川秀樹、宮田ワリイ、今村順也、2022.3月  
 2) 性別違和・トランスジェンダー当事者における性産業従事経験、性行動、性感染症の罹患、報告の比較 36回日本エイズ学会学術集会

## 性的指向

n=276

性的指向	割合
ヘテロセクシュアル(異性愛者)	40.9%
パンセクシュアル(全性愛者)	17.4%
バイセクシュアル(両性愛者)	11.2%
その他	9.1%
ゲイ(男性同性愛者)	8.0%
Aセクシュアル(無性愛者)	4.7%
わからない	4.7%
レズビアン(女性同性愛者)	4.0%

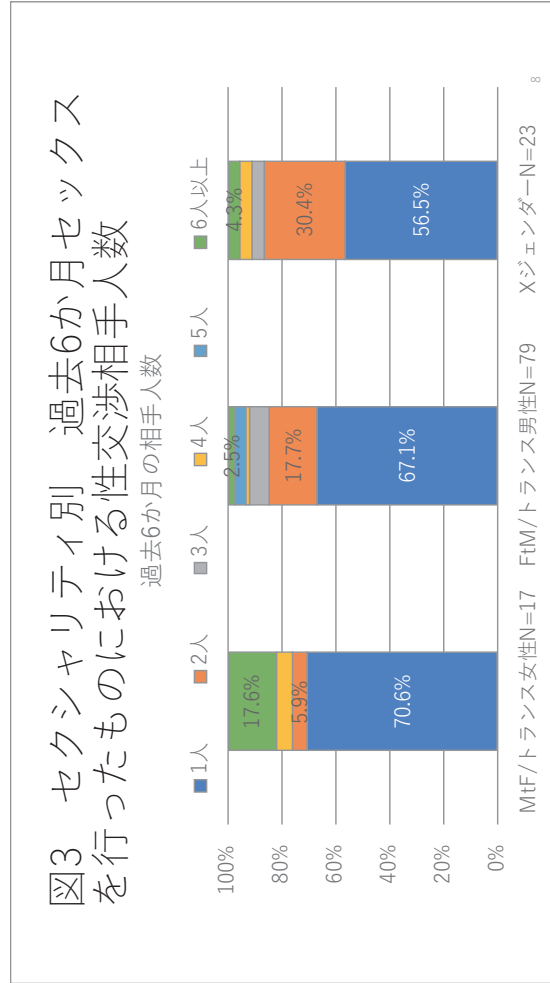
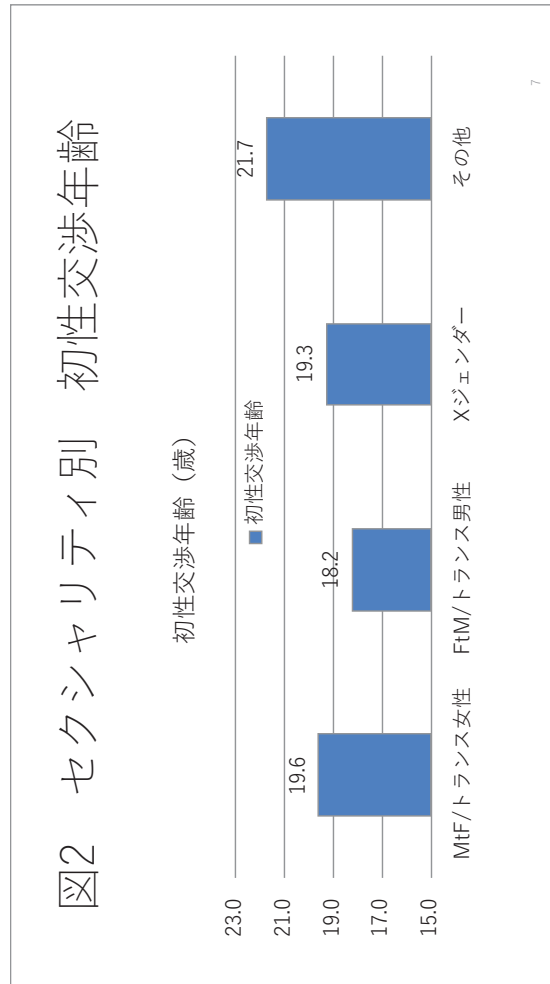
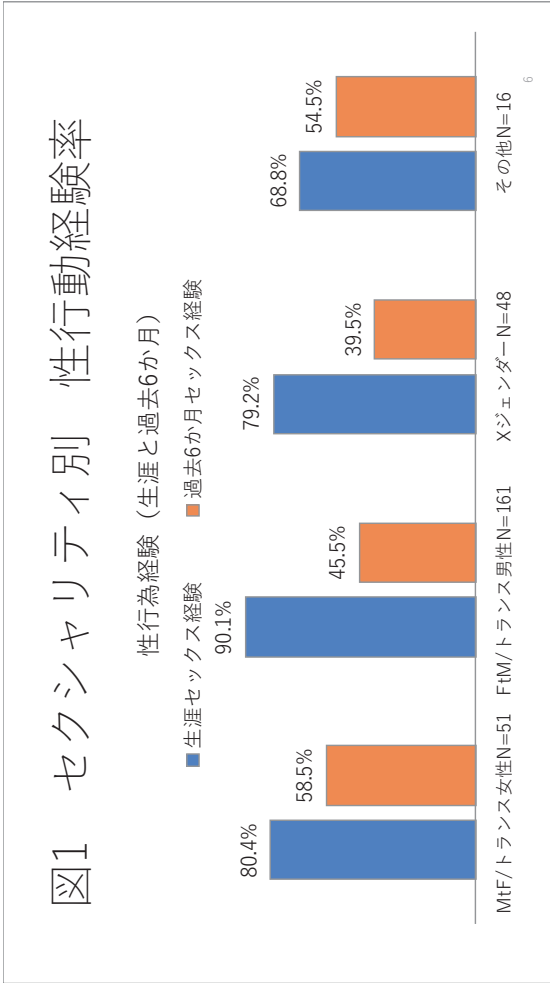


図4 過去6か月性行為を行ったものにおけるポジション

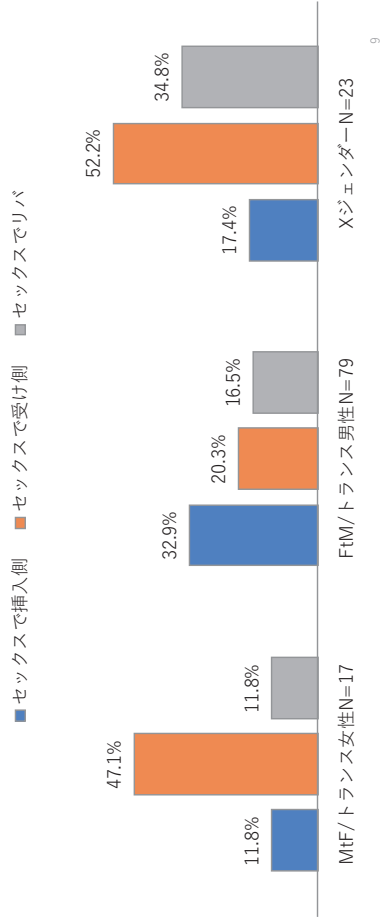


図5 過去6か月性行為を行ったものにおける行為（ペニスバンド使用、オーラルセックス）

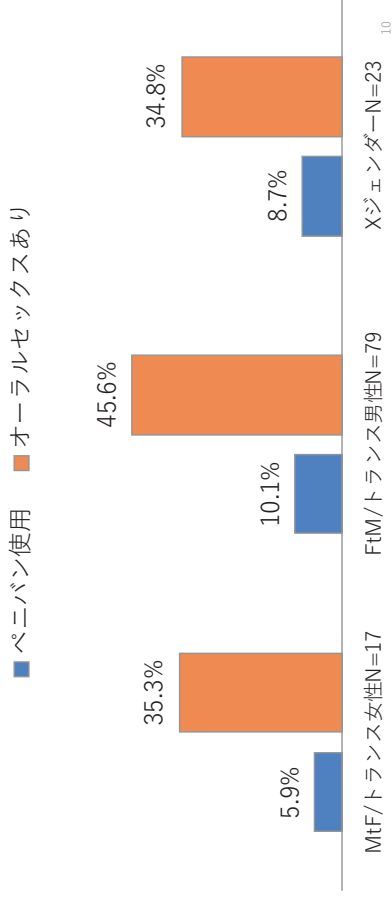
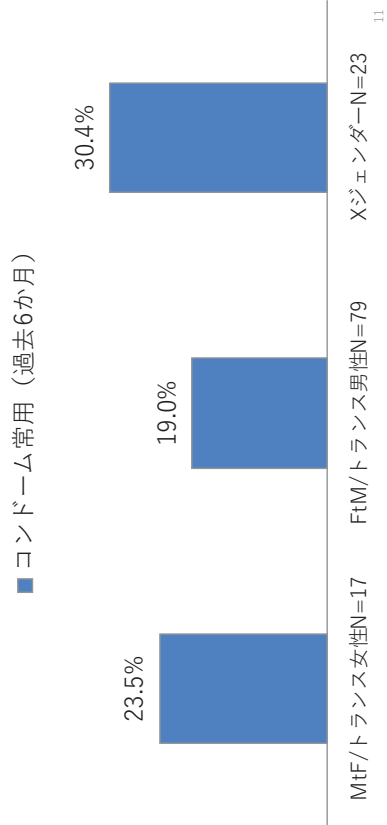


図6 過去6か月セックスアクティヴ層におけるコンドーム常用割合



「これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがあるか」の項目では、あるが33.0%、ないが67.0%だった。

図7 これまでにHIV抗体検査（エイズ検査）を受けたことがあるか(n=276)

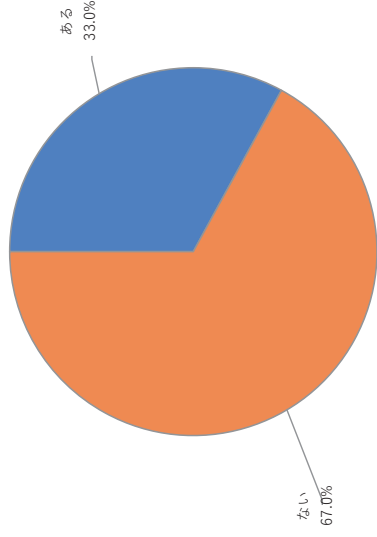
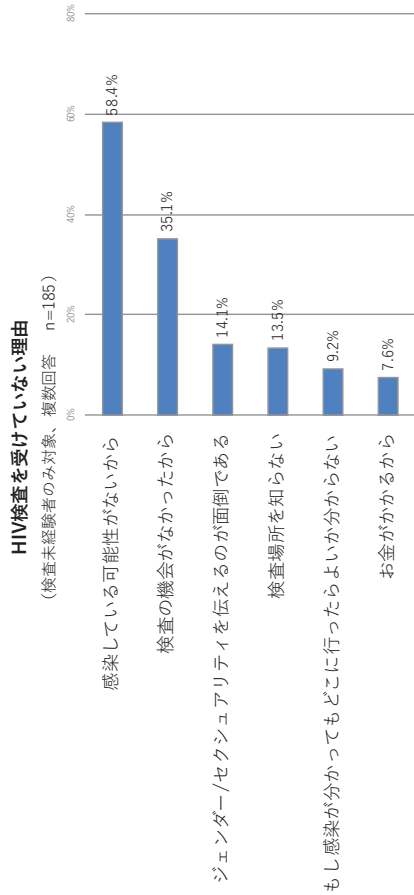
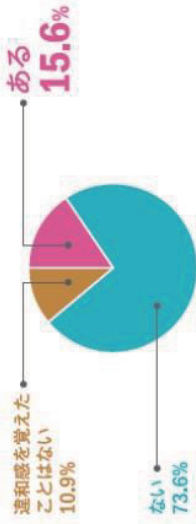


図8 「HIV検査を受けていない理由」をたずねた。検査を受けたことがない人における未受検理由は、「感染している可能性がないから」が58.4%と最も高かった。



13

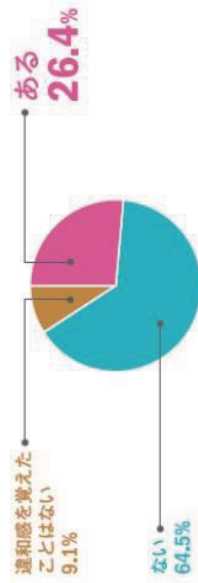
出生時の法的な性別に違和感を覚えるようになってから、HIV検査に関して、病院や保健所が使いにくくなったことがあるか n=276



性別違和を覚えてから、病院や保健所が使いにくくなった人が15.6%となっており、病院利用の苦手感が違和感を述べている人がいることが考えられる。  
FIMの方がMIFより使いにくさを感じている人の割合が高かった。

14

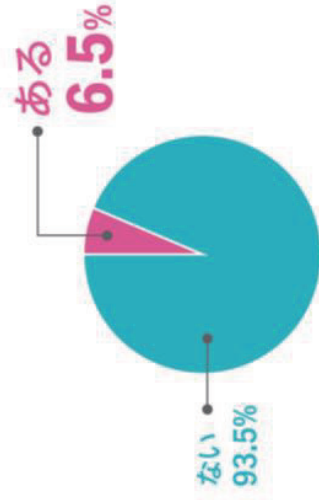
出生時の法的な性別に違和感を覚えるようになってから、性感染症の心配があったときに、病院やクリニックで診察を受けにくくなったことがあるか n=276



性別違和を覚えてから、病院やクリニックを受診しにくくなった人は26.4%であり、HIV検査が使いにくくなった人の割合より高い。

15

これまでに性風俗系の仕事をしたことがあるか n=276



16

## 金銭授受を伴う性交渉

これまでに相手にお金を払って性交渉をしたことがあるか n=276



これまでに相手からお金をもらって性交渉をしたことがあるか



お金を払った性交渉の経験は10.9%、お金をもらった性交渉経験は14.1%であった。

17

## セクシュアルヘルスの課題

- 諸外国と比較して、本調査対象者の性行動や予防行動の高低は一概に論じることはできない
- しかし、約半数は、過去6か月に性交渉を持っており、STI罹患リスクのある行為を行っている可能性はある
- 検査へのアクセス、予防情報が十分には行き届いていない可能性が高い
- 性感染症の検査の受検経験や過去1年の検査受検経験はほかのセクシュアルマイノリティよりも低かった。
- 当事者に必要な情報提供がなされ、必要時検査を受診できる環境整備が必要である。

18